Powered by Vivliostyle

文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

問三3b 傍観型の語り手35	問一3b 三人称限定① 31	問一3a 三人称限定② 26	視点と語りの声325	問三2b 傍観型の語り手21	一2b 三人称限定	問一2a 三人称限定② 12	と語りの声2	問一19	問一1	序字	自分の文のひびき 8		目次	
			問三6b 傍観型の語り手77	問一6b 三人称限定①73	問一6a 三人称限定② 8	視点と語りの声6	問三5b 傍観型の語り手	問一5b 三人称限定①9	問一5a 三人称限定②5	視点と語りの声5 53	問三4b 傍観型の語り手9	問一4b 三人称限定①	問一4a 三人称限定② 40	視点と語りの声4 3

問三9b 傍観型の語り手119	問一9b 三人称限定①115	問一9a 三人称限定②110	視点と語りの声9	問三8b 傍観型の語り手105	問一8b 三人称限定①101	問一8a 三人称限定② 9	視点と語りの声8 95	問三7b 傍観型の語り手1	問一7b 三人称限定①87	問一7a 三人称限定②82	視点と語りの声7
問三12b 傍観型の語り手・・・・・・・161	問一12b 三人称限定①·157	問一12a 三人称限定②·152	視点と語りの声12 151	問三11b 傍観型の語り手147	問一11b 三人称限定①·	問一11a 三人称限定②·138	視点と語りの声11137	問三10b 傍観型の語り手	問一10b 三人称限定①·129	問一10a 三人称限定②·124	視点と語りの声10123

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

文体操舵録

自分の文のひびき

•

書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われて

の場合、本文が始まる前に書き手が意図を説明する紙ことをセットとした合評会の設計もあります [1] 。 そ解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出すいますが、ワークショップの本によっては美術展示のいますが、ワークショップの本によっては美術展示の

ス、読み手への答え合わせになるでしょうか。になります。本文の後に置く場合は合評へのレスポンの意図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評面を設ければ、参加者は予断をもって文章を読み、そ

です。探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところ探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところー章の第一問、第二問とやっている間はとにかく手

Ξ"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing workshop" (F. R. Chavez, 2021) ₹5 ξω

問一 1

いっこうに思い口っている。骨が重い。重じぎに、立ち去るころになって、あの子に大したことができ

は、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。 に、金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。

ないし、日記だって、 起きたこと全部を書いている

わ

けでもないだろう?

話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始 めて熱気球を打ち上げたときのことは。 気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪い もっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

る。

問二 1

龍紗から水が抜け落ちては、海面から躍り出る。 全身は 濡らし伝いながら海面へと戻った。跳ねた白蛟を空気 う弧になる。 を蹴れば、 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床板 支えない。 蛟の子は飛び上がり、沈みこんでは床板を蹴り、 への繋ぎ橋はまだ、 跳ねとんだ下肢は陽ざしの下、 床板は白蛟のを強かに打ち付けたが、閉 龍紗が吐き出した水は、こんどは橋桁を 全身は届かなかった。上体の 上り坂のままである。 膚をぺたりと取り囲み、 床板へ向か

> 珊瑚の浮き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。 側から、 れば、 空気の中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、 濃淡を認めるだろう。 空気に招かれて浮き上がる。がらんどうの島を見上げ ては新しい色を得る。ひとたびうつろになれば、 隣島への道を渡る。その内側は、まだ空洞のはずであ 痛みによろめき、 じた龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は けていく紺青でもなく、 中身は白蛟たちの島に吐き出されて、混ざりあっ 死んだ珊瑚も同然に色あせていた。 坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でない まろびながらも肢を整えては橋の上、 水面近くの白藍でも、深みの溶 水の纏う色ではない。 いま空気の 白蛟が見 生きた

たことのない色と形で手招きするように揺れていた。

橋が下り坂になるのはずっと先の ましてや子ひとりの重さでは沈

むまい。 はずである。 隣島に中身が戻り、

白蛟の、

白蛟は意を決すると、肢を揺らして殻のふち

視点と語りの声 2

▼ 問一 2a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から一瞬にないませい。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続くを手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

11 文体操舵記録

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 2a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はります。これでは、当日のフェースが高

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 2 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

文体操舵記録 13

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 2a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

◆ 問三 2a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き種らし、安堵した親が子供に声をかけ、子供は立き種らして告げる少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。保安員に彼らを追い出すような権限はない。水ントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日である。アミューズは、安堵した親が子供に声をかけ、子供は立き種にある。アミューズは、安堵した親が子供に声をかけ、子供は立き種にある。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四四 2 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

文体操舵記録

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ店木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 2b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

絶対

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

17 文体操舵記録

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 2b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、難裏からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朔に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朔に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朔に戻った。

考える。 バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 2b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

文体操舵記録

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になてきない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を出ていく。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 2b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシートを蹴りつけられるのは、まあマッサージとでも思えれいに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一種もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく絹モラし、リオ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

21 文体操舵記録

エントランスは殺風景で、 問四 2 b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまった子供達

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 うまく飛べそうにない大人、そう

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

•

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 3

◆ 問一 3a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対でも弟はもう駆けだしていた。席面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にはなるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、カズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続勝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 3 a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも対強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はして向こう側を見ようとする。

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 3a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、と上述タンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をしまる。

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

◆ 問三 3a 傍観型の語り手と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目がかなり大変だと思いました。

◆ 問三 3a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに関が強張る。アミューズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

一緒に歩いていた。

ない。

問 四四 3 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの場所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にこのす例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 3b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。がリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそさっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

31 文体操舵記録

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 3 b 三人称限定②

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 考える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 3b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。

問三 3b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一種もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一種もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵したものと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし保安員に彼らを追い出すような権限はない。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

大の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

で女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と
に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 3 b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それがので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチザんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

場所を選んだ理由だった。

していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致してといったかが部屋を外しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあずる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めでる訴訟は続いているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答

•

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

37

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 4

問 一 4a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 4a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも対強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感とトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 4 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン

文体操舵記録 41

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目

問三 4 a 傍観型の語り手

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 意を決して近づいた。こ

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ

トを蹴りつけ続け

背中を椅子越しにリズミカ

機内のことを思い起こさせる。

何が気に障ったのか、

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強 面の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 アミュー つまり私に ズ

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

問 四 . 4a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

文体操舵記録 43

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。やナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります」

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事後がですが、書いているときは過去の回転ドア事故

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 4b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

絶対

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

文体操舵記録

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続勝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?と、内側にずらりと並んだレンズ――あんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりとがんだしいでの頑丈そうしてるみたいに。

問一 4b 三人称限定②

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

考える。 バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 4b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

47

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな った異音もなく、いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

っている。

先週交換したばかりのアーチ部は、

問三 4b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

文体操舵記録

ì

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 4b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。ら、アトラクションの一部と言えなくもない。それはその回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をに送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれなだ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込ったかもしれない。

たれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事とれる。保安員が指導されているのは、そのような事といる。とは、といるのは、そのような事となる。

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

文体操舵記録 51

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 5

問一 5 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足

にマットレスの感触。

みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

問一 5 a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

80

問二 5 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。

、サイ

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

55

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆ へんぱん かまのところ安定していた。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 5a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしな、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしないが、彼らの顔が強張る。アミューズ威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 5 a 潜入型の語り手

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

文体操舵記録

57

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 5b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

できな行きたかった。弟の手前でさえなければ。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 なっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 のままで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟のも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足のが近れて、場の背丈ならだいたて、場の背すないがした。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続を手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 5b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばいると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の対象がある。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 5b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

文体操舵記録

61

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

問三 5b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ―― 背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

文体操舵記録 63

エントランスは殺風景で、 問四 5b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

> 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、

の事例が念頭にありました。

いた。

書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 6

問一 6 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 6a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 6a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持される。像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるの

を

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、下半球でに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そこに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。一次のができる。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャの重心位置を補正し、一定の加速である。の一位では、それに対しては、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

っている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

◆ 問三 6a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

未知の情報を読者に提示することを主目

と思います。

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の大シーが、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らした。安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らした。同シフトのは、ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのが、ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのがに感を覚えたの。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら に女の子は立ち上がり、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問 四 . 6a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

71 文体操舵記録

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しかし、

彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

◆ 問一 6b 三人称限 定① なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。

現実の3Dスキャン技術はか

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

73 文体操舵記録

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

にマットレスの感触。 て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた で、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのにマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 6b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばあり、 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、シームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 6b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

75

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。のルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト

っている。 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

76

問三 6b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ 威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、つまり私に アミューズ

> 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問四 6b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

の事例が念頭にありました。 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

79

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 7

問一 7 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 7a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

の)を一回云して状をついる。しが兆だにできる状ました向こう側を見ようとすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?がリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 7 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるの

イクルキャプチャ®は、

を

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 7a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。 整理がかなり大変だと思いました。

◆ 問三 7a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしく、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしく、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き種のした。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

問 四四 7 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

文体操舵記録

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

唐木田が振り返ると、

機材の跡の染みから目線を上

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させん。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 7b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、絶対と立き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、のちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。 をは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものりしていられるの。無事に。みんなそうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 7b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばあ力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも一分よりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、親に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、別に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、別に戻った。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。啓は駆けだしていた。
中ランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 7b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。ペー5×メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンクルキャプチャ®へ飛び込む親子連れも、年齢制限を 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 止ボタンの本来の使用者である常財保安員のやること

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

問三 7b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 7b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 出口ドアから覗くカラフ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。それは 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「おざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しております」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

♦

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声8

◆ 問一 8a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対 を大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に りズムで、そのまますっと跳んでしまう。 りのものでしまう。列の先頭に りばして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 をと大して膝に足

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 にマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 8a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず・部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 8a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 w ゚5 м といれに設置された軸受けで水平に保持され、かい5 メートルに設置された軸受けで水平に保持され、差し向儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるの

を

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としては――

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能生で勿議を譲した。だが一度で80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること上ボタンの

97

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

◆ 問三 8a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私にがありますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させるようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、そちらの大掛か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

一緒に歩いていた。

問 四四 8 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 銀の半円リングが回っている。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

文体操舵記録

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

アで保安員を配置するよう記されている。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

回転体に人間を接触させ

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 8 b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

101 文体操舵記録

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも、内側にずらりと並んだレンズ――あんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像でも内側から見えた半円リングの頑丈そうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 8b 三人称限定②

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

102

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 8b 遠隔型の語り手

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

文体操舵記録 103

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

に速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になり、 りかキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。

104

問三 8b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

文体操舵記録 105

間

エントランスは殺風景で、 四 . 8b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

いす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

文体操舵記録

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声9

◆ 問一 9a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いた手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけった。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 9a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きど、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも対強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

サイクル キャプチャ® 問二 9a 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

地球

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 年齢制限を

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 怖がってジャン

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 問三 9a 未知の情報を読者に提示することを主目 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

んとした泣き声の発生源に、

意を決して近づいた。こ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 何が気に障ったのか、

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か 同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 今子供 着陸時

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

問 四 . 9a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの

れた線を隠しきれてはいない。
「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

ることは、悠にはまだ信じられない。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 9b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やなと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切取けだして、視界が沈んで、跳ねて、りゅんと風を切なる音がずっと右から下から左からでした。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続を手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも、内側にずらりと並んだレンズ――あんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像でも内側から見えた半円リングの頑丈そうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 9b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばあ力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からずも一分よりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、親に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、別に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、別に戻った。

116

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 9b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 9b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんだ。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近さいた。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵したらと笑うと、私は部屋の端にある目立た保安員に彼らを追い出すような権限はない。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とに女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

に送る。

その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

エントランスは殺風景で、 問四 9b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

国 虹をくぐった先の魔法の国、 霧を抜けた先の不思議の

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界 それは

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれていたが明さ出すことができなければ、あと数年はもつれていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのといったがが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をあぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証といった。 「当日の様子を話していただけますか?」

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故◀

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 10

問一 10a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、も

問一 10a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 10a 遠隔型の語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆のた異音もなく、いまのところ安定していた

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

◆ 問三 10a 傍観型の語り手 整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 10a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

国

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

エントランスは殺風景で、 問四 10a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故◆

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 10b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

通り抜けた。

無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 10b 三人称限

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば (定2

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 問二 10b 遠隔型の語 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 一定

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏

内

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

文体操舵記録

131

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

できない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはかる。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

132

問三 10b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

エントランスは殺風景で、 問四 10b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

に送る。

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 踏み込

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 ャナを怖がる子供、 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 うまく飛べそうにない大人、そう しかし時折、 勢いあまった子供達

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

いた。

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 11

◆ 問一 11a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対を大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりぶムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、かだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、乗りには、あんなの無理、絶対を大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがある。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 11a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助りを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助りを一回転して球をつくる。4円のフェースが影響をある。2つすると、4円のフェースが影響を表現している。2つすると、4円のフェースが影響を表現している。2つすると、4円のフェースが影響を表現している。2つずると、4円のフェースが影響を表現している。2つずると、4円のフェースが影響を表現している。2000年によりますると、4円のフェースが影響を表現している。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年によりまする。2000年

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのはねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

138

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 11a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 図式としては そ 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 安全性に懸念を示す親や、 怖がってジャン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆ おりまのところ安定していた。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

◆ 問三 11a 傍観型の語り手を思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 11a 傍観型の語 h

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 . 11a 潜入型の語り手

ったかもしれない。

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

られる。

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はすの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

◆ 問一 11b 三人称限 定① なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 即禁止されるものです。

現実の3Dスキャン技術はか

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対ることは、悠にはまだ信じられない。

143 文体操舵記録

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

三人称限

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 11b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば (定2

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にないできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

> りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

潜入型の語り手

問四 11b

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは 殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故●

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 12

◆ 問一 12a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 12a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 12a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

~ 大量音もなく しまのところ 安定してい

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 12a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 12a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

ゆ しき引がかかりますが、という前畳きして告ずる保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日のメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ 近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしや、安堵した親が子供に声をかけ、そちらの大掛か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問四 . 12a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しかし、 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ られる。 保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

いので、 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ントランスは 広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ 殺風景で、 撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります」 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、

れた線を隠しきれてはいない。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ 応答

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事がですが、書いているときは過去の回転ドア事故

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 12b 三人称限定①

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。がリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそさっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

三人称限

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 12b 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 して向こう側を見ようとする。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まいたれる。バリアってこういうことなんだ。次の人まいたするフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 12b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。 R P5 M

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~90枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停さ人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。中間ではいばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転が出いてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

160

問三 12b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、つまり私に アミューズ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 りな旧式スキャナの電源を入れる。 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問四 12b

潜入型の語り手

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは 殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 13

問一 13a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 13a 三人称限定②

していられるの?

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はして向こう側を見ようとする。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を連るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。時は駆けだしていた。
とうンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と呼ば取けだしていた。
というながある。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

って、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 13a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

部へ跳びこむことを要求する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 定

> クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

文体操舵記録 167

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。 未知の情報を読者に提示することを主目

日ぶり十六件目。 問三 13a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ アミュー つまり私に ズ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

問四

エントランスは殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

> 国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ熊を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いた。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 13b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

問一 13b 三人称限 (定2

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球◆ 問二 13b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。ペー5××

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。

問三 13b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

> 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ 威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、つまり私に アミューズ 日の

> て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 りな旧式スキャナの電源を入れる。 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問四 13b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

> ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 エントラ

応答

余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、

あと数年はもつれ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 14

▼ 問一 14a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切断けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがと泣き叫び、着いいの手を上げて、れているのでは、かんなの無理、絶対をと大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがという。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

問一 14a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 14a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ©

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 のアーチが回っている。 対象が動いてくるのを 地球

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 14a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

● 問三 14a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

問四 14a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

エントランスは殺風景で、

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

や

銀の半円リングが回っている。

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

唐木田が振り返ると、

機材の跡の染みから目線を上

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのお所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 14b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそと大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

して向こう側を見ようとする。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

三人称限

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 14b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

186

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 啓は駆けだしていた。 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と 装置が遮られずに見える。

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

での期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 14b 遠隔型の語 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを 差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 14b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これの世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりた。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく糸に対してした

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

アミューズ

日の

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、つまり私に

問四 14b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

エントランスは殺風景で、

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

国 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そう

アで保安員を配置するよう記されている。 マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

れた線を隠しきれてはいない。「時木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故◆

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

いた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 15

問一 15a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

通り抜けた。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。 文体操舵記録

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 15a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 15a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

大縄跳びに近い。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 イクルキャプチャ®は、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるのを 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

> カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 何事もない顔をして回転 年齢制限を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 怖がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

→ トまのところ安定して、

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 15a 傍観型の語り手を思います。未知の情報を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだい

● 問三 15a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 のだ。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

エントランスは殺風景で、 問四 . 15a 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ り手

ったかもしれない。

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは

別室扱いの客が出た時のためにペ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよりでに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 15b

三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅しっちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

三人称限定②

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 問一 15b 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず

して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 との背中が減る。装置が遮られずに見える。 変族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球◆ 問二 15b 遠隔型の語り手

毎分回転8~8の範囲で回転している。 № 5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としてはサイクルキャプチャ@は、対象が動いてくるのを

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

ト施設においてはまぎ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を ができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はずないの本来の使用者である常駐保安員のやること はがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、 がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

202

問三 15b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

つまり私に アミューズ

エントランスは殺風景で、 問四 15b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

VRアミューズメント施設では実際に体を

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

いた。

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 16

問一 16a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

通り抜けた。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し ひゅんと風を切 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。 文体操舵記録

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 16a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?がリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はがりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はして向こう側を見ようとする。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

って、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 16a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持されかい5 メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、 《再構成圏内》 図式としては そ 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな プできない子供たち、 跳びこむ動きが困難な利用者を 怖がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

◆ かりまる ところ 多気して しか

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 16a 傍観型の語 b

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 問四 I 16a 潜入型の語 り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

唐木田が振り返ると、

機材の跡の染みから目線を上

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はすの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。がはて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた めぐる訴訟は続いている。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

いた。

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 16b 三人称限定①

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 っちへ行きたかった。 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 挙句両親もスタッフも手を上げて、 弟の手前でさえなければ

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 16b 三人称限

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば (定2

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

して向こう側を見ようとする。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まいたれる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で唇は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球◆ 問二 16b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30〜40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

カレテアプニアの こそがと J 見ご 直しっ、三合司录とト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

く人間を倹和し浄上するよう役官されており、緊急停モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

っている。 のできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を ができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン はがない。安全性に懸念を示す親や、 がってジャン

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

整理がかなり大変だと思いました。

問三 16b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんど。これないようとしている親が浮かべているのと同じもたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、いつかの飛行の世の終わりのようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

はました。C、C。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と はなの子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と はなの子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と はなの子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と はなの子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく緒に歩いていた。「「糸に刃大と見しき男の言と

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一

日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

アミューズ

エントランスは殺風景で、

問四 16b 潜入型の語り手

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

国 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、 その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 踏み込

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

余談ですが、

の事例が念頭にありました。

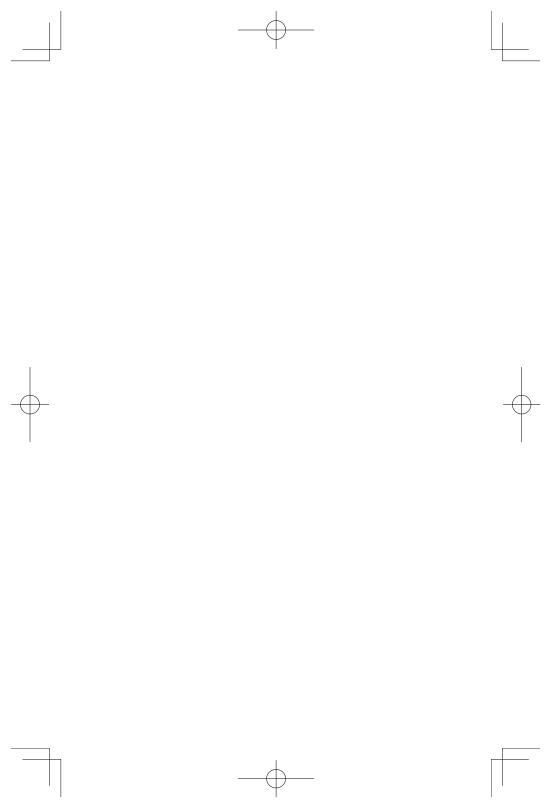
いた。

文体操舵記録 219

書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、



文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。